

し ろ や ま

S H I R O Y A M A

VOL.2

contents



- | | |
|---------------------|---------------------|
| ■ 知っておきたい病気基礎知識 … ① | ■ 当院看護理念 … ⑥ |
| ■ 新病院移転準備中! … ② | ■ ドラッグインフォメーション … ⑦ |
| ■ 職場紹介 —看護部第一病棟… ③ | ■ 栄養科トピックス … ⑦ |
| ■ ドクター紹介 … ④⑤ | ■ 編集後記 … ⑧ |

当院には腹痛の患者様がよく来られます。その際、「胃が痛い」と表現されます。きわめて頻度の高い疾患として胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の消化性潰瘍があります。消化性潰瘍はさまざまな疾患のなかで最も大きく治療法が変貌を遂げた病気です。潰瘍は直るが潰瘍症は直らないといわれた時代から、消化性潰瘍の根治が期待できる時代へと変化しています。優れた胃酸分泌抑制薬の開発により、消化性潰瘍はコントロールの比較的容易な疾患となつていますが、さらに新しい治療が加わりました。消化性潰瘍の成因として、グラム陰性桿菌で胃粘膜にいるヘリコバクター・ピロリが認知されました。ヘリコバクター・ピロリが定着



院長 牧野 剛緒

知っておきたい病気基礎知識 ●胃・十二指腸潰瘍かいようについて●

すると胃粘膜組織に白血球が浸潤し、そこから炎症性のサイトカインなどが発生し、慢性的な炎症を起こすのです。胃潰瘍の70%、十二指腸潰瘍の100%がヘリコバクター・ピロリの関与という報告もあります。平成12年11月よりその除菌療法が保険適応となりました。

胃・十二指腸潰瘍の消化性潰瘍は胃から分泌される胃液により、胃・十二指腸が自家消化作用を受けて潰瘍を発生させるのです。自然治癒傾向が強い反面、繰り返し再発する場合同が多いという特徴があります。通常、胃・十二指腸粘膜に対する攻撃因子（胃液中の塩酸およびペプシンなど）と、防御因子（胃粘膜の粘液や血流など）はバランスが保たれています。しかし、攻撃因子である塩酸、ペプシンの量が正常より多くなったり、また、粘液分泌や粘膜血流が障害を受けて防御因子が低下した場合、両者のバランスが崩れ、潰瘍が形成されます。そのバランスの破綻については、ストレス、薬物、喫煙、アルコール、低栄養、全身疾患などが関連要因としてあげられ

ます。精神的緊張、不安、興奮などの精神的ストレスや、熱傷や外傷などの身体的ストレスによる自律神経の失調は、胃液の分泌を亢進させます。その結果、局所的に血流障害が生じ、潰瘍が形成されます。薬物については、アスピリン製剤等の非ステロイド抗炎症薬によるものが多くみられます。自覚症状として疼痛があります。大部分は上腹部痛として訴え、疼痛の性質は鈍痛のことが多く、一般には持続痛です。しばしば上腹部より背部に放散することがあります。疼痛の出現時間は、胃潰瘍では食後に出現することが多く、十二指腸潰瘍では空腹時や夜間に多くみられ、牛乳などの食事摂取により軽快します。胸やけ、げっぷの酸味状とよばれるものがあり、胃液が食道内に逆流するために生じます。胸やけは心窩部上部または胸骨下部に起こる焼けるような感じですが、げっぷは胃内のガスが口から放出されることであり、精神的要因、ストレスから、無意識のうちに唾液とともに空気を頻回に飲み込むために生じると考えられています。悪心・嘔吐・吐血・タール便といわれる、黒色泥状の下血などを認めることもあります。

(つづく)

次号では、胃・十二指腸潰瘍についての予防と対策を掲載予定です。

新病院 移転 準備中！



完成予定図



現在建築中の様子



地鎮祭

現在の黒木病院は建物の老朽化が進み、皆様もご存知と思いますが、新病院を北小路に建築中であり、今年1月より着工しています。今年度中の完成を目指して着々と進行しています。あとは、建築期間内の安全を祈る次第です。

新病院を簡単にご紹介しますと、鉄筋コンクリート5階建て、外観は白を基調としたタイル張りで、玄関を入ると2階まで吹き抜けの待合ホールとなっています。手術室を2室、また、当院の特徴である消化器疾患を中心とした医療をさらに専門特化すべく、内視鏡室の拡充を図りました。また、新たな取り組みでもある健康増進室（フィットネス）を最上階の5階に完備する予定です。病床数は82床と現在と変わりますが、患者様1人あたりの部屋の広さは8平方メートルと広い療養環境となっており、全体的に患者様のプライバシーに配慮した設計となっています。

また、長い間皆様に変えて迷惑をお掛けしている駐車場の問題も、新病院では解消できるのではないかと思います。

最後に病院建築に際し、地域住民の皆様にご多大なご迷惑をお掛けしておりますことをご理解いただき、今後とも黒木病院をよろしく願い申し上げます。

「建設状況 8月20日現在」



第2回

職場紹介

このコーナーでは、当院で働くスタッフを各部署別に紹介しています。
今回は看護部第1病棟の紹介です。



看護部第1病棟

私たちの勤務する第1病棟は、病床数59床、新看護2・5対1、内科、外科の混合病棟となっています。

スタッフは看護師数23名、新人からベテランまで、看護に熱い心を持ったスタッフが日々のケアに

あたっています。

ケアの範囲は、急性期疾患から慢性期の疾患、そしてターミナルにも及び、さまざまな患者様が入院されています。

患者様の人格を尊重してあたたかい手を差し伸べ、内容のある継続した看護を提供できればと、固定チームナーシング方式をとっていますので、少しでも悩み・苦痛に思っているらしやることがあれば、いつでも遠慮なくお話をください。院長をはじめスタッフが、早朝よりお部屋に伺っています。

伝えにくい事は各階にご意見箱を設置していますので、どんな些細なことでもかまいませんので投書してください。又、病棟回診は毎日あり、そのうち週2回は栄養士・薬剤師が参加し、チーム医療を目指しておりますので、わからない事はお尋ねください。

院内食行事としては、2ヶ月

に1回5階ホールにおいてバイキングを楽しむことができます。とてもおいしいと好評です。詳しくは7ページの栄養科トピックスでバイキングの様子をイラストを交えて掲載しておりますのでご覧ください。

又、当院では※クリティカルパスを導入しています。その資料を見れば退院までの経過が一目でわかり、安心して治療が受けられる様、日々の看護に取り組んでいます。

先日、延岡総合文化センターでの救急フォーラムにおいても、24時間365日救急医療体制を強く望まれている地域の皆様の声を聞きました。その声を、私たちは看護を通して地域の皆様の健康に貢献できるように、又安心して生活が送れるように、スタッフ一同頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

※クリティカルパス

特定の疾患・治療単位ごとに治療・ケアの重要項目が体系的に整理され、進行経過に従って、患者が達成を目指す基準が時間枠の中で明示される総合的・標準的進行計画書

ドクター紹介



どうぞよろしく

このコーナーでは、現在黒木病院で勤務する3名のドクターに、自己紹介を兼ねて、病院での取り組みや医療に対しての思いなどを語っていただきました。



医師 日高 淑 晶 よし あき

外来での短い時間ではみなさんとゆっくりお話しすることができませんので、この場をかりて、最近考えていることを整理してみたいと思います。

1、外来の待ち時間…病院としては7月から予約制を取り入れ、改善をはかっています。それとともに私としては、「待ってもいいから、診てもらいたい」「これだけ診てくれるのなら待つて良かった」といわれるような診察をしたいと考えています。

2、一緒に病気に立ち向かう…病気に勝つには、一緒に立ち向かうという強い意志が患者さんの側にも必要ではないかと思っています。そのためにも、よく話し合わないといけないと思います。

3、今後のこと…この黒木病院は手術症例が多い病院です。手術手技については、安全かつ十分な医療を提供できると思います。私としては、術後の補助化学療法（予防的な抗癌剤治療）、あるいは手術不能例の化学療法については、より知識を深めて、よりよい医療を提供したいと考えています。

一緒にがんばっていきましょう。



医師 弓 削 麻里子

こんにちは。平成14年4月より宮崎医科大学放射線科から赴任となり、黒木病院に現在勤務しております。院内ではCT等の読影と診断、また内視鏡も担当しています。

当院に設置されているCT（体の内部を輪切りに撮影する機械）はマルチスライスCTといっていて、県北には当院にしか設置されていません。短時間で綺麗な写真が撮影できますので、患者様に負担をかけることが少なく、より高度な診断まで可能となっています。

内視鏡は胃・大腸の一般的な検査、ポリプ切除なども行っています。

大学を卒業以来、1〜2年を周期にいろいろな病院に派遣され仕事をしてきましたが、県北は初めてです。最初は聞き慣れなかった延岡弁にもだいぶ慣れてきました。ローターナーなのでいつまで当院に勤務できるか分かりませんが、少しでも皆様のお役に立てたらと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。



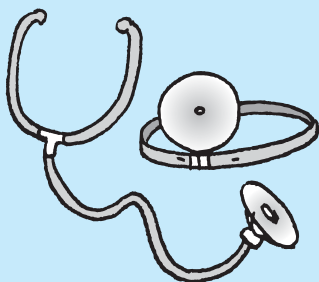
医師 永 野 元 章 もと あき

6月1日に黒木病院に赴任してまいりました永野元章です。

佐土原町出身で、宮崎医科大学を卒業しました根っからの宮崎人です。延岡に来て、あっという間に4ヶ月が経ちました。

延岡にもだいぶ慣れ、休みの日には、二人の子供をチャイルドシートに乗せドライブを楽しんでいます。

医者としては、まだまだ研鑽中の身で、「優れた、優しい医師」を目標に、患者さんの心にささっている、串が一本でも多く抜けるよう、日々の診療を行っています。よろしくお願ひいたします。



自分の受けた看護を

— 病院理念実現を目標に —

健康づくりに勤め、優しさや温かみのある病院を目指し、地域社会へ貢献する。



総婦長 中山 典子

今年、4月から黒木病院にお世話になっております。どうぞ宜しくお願いいたします。

25年ぶりに生まれ育った延岡へ帰ってまいりました。これまで大阪府下で看護職を休むことなく続けることができた、幸いに延岡の地でも看護ができることに感謝しています。

また、このような私を総婦長として迎えて頂いたことにも心から感謝するとともに、その責任の重さを深く受け止めております。そして、院長をはじめ、病院スタッフとの出会いと、これからの関わりにワクワクしています。これから、病院新築という大仕事をみんなで支えあい成功させなくてはならないのですから、一人一人のエネルギーを身近で感じられると思うと楽しみです。

少し、私の経験をお話いたします。これまでお世話になった病院は、全て総合病院でした。全く経験のない診療科は小児科、産婦人科、

手術室で、他はほとんど浅く広く学んでくることができました。

これは1看護単位の中に3〜4科があったこと、救急や集中治療室へ配属されたことで、多岐にわたって学習しなければならぬ環境であったことが幸いしています。中でも外科は一番楽しい思い出のある科で、黒木病院は消化器外科が主たる診療科と聞き、喜んで就職いたしました。

また、中間管理職（主任、婦長）としての経験は10年くらいになります。看護管理とは、「自分はどうな看護を提供したいのかを明確にしておくこと」、「与えられた条件のもとでもっとも良い看護を行うためにもっともよい方法を選び、適応して目的をなしとげること」、「改善、改革、戦略」だと教わりました。総婦長としての役割の中でいかにせるよう、努力したいと思います。

次に私の考える看護をお話しておきます。一言でいうと「自分の受けた看護」です。これはナースになつてからずっと同じです。ですから、大阪の病院でもスタッフに言い続けました。自分がその患者様と同じ病気で同じような状態だったら、どうしてほしいのか、何を望んでいるのか考えて看護をしてほしいと……スタッフ一人一人がこれを実現してくれたら、病院理念の実現が可能と

なります。仕事の成功は理念の実現だと考えています。私自身もこれを目標に患者様の声や眼差しをエネルギーとして頑張りたいと思います。

黒木病院は82床と、これまでの病院よりは小さいですが、病院の隅々まで知ることができ、そしてこれくらいが自分自身の考える看護の実現をより可能に思うと思っています。

あまり大きい組織だとお互い自分の部署しか見えず、他部門との関係がうまくいかなかったり、その調整に時間がかかったりしました。患者様の声も聞け、一緒に働いているスタッフの声も聞ける環境が作りやすいと思っています。

今、看護部は組織としての機能が働いているとはいえませんが、責任ある看護活動が行えるような看護体制や看護方式をはじめ、業務改善、安全対策など整えなくてはならないことが山積みです。それには看護師一人一人が問題意識をもち、職業人としてのプロ意識をもつ必要があると思います。せっかく看護師という国家試験をパスしたのでから、いつでも輝いて誇りを持って仕事をしていきたいと考えます。

その勇氣とエネルギーは患者様がいつでも与えてくれると信じ、皆さんとともに一歩一歩進んで行きたいと思っています。

ドラッグインフォメーション

第2回

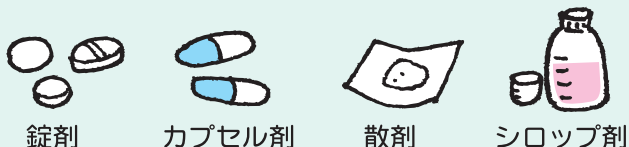
DRUG INFORMATION

今回はクスリの形についてお話ししましょう。
クスリの形（剤形）は内用剤、外用剤、注射剤の3つに大別できます。その中でも使いやすく、より効果的に
なるように工夫された剤形がいろいろあります。

薬の種類

薬はいろいろな形、大きさ、色があり、同じ成分でも形や色が全く違う場合があります。

その1 内用薬



その2 外用薬



その3 注射薬



小さくても
効果の強い
くあいも
あるね。

色や形と
くあいの効果は
関係ないん
だね。



- ・毎日決まった時間に薬をのみます。
- ・薬を飲む量を守ります。
- ・コップ一杯くらいの水またはぬるま湯で飲みます。



かんでは
いけま
せんよ。



●錠剤、カプセル剤はガリガリかまないようにしましょう。苦かったり、効果が変わります。

●トローチ剤は口の中であまらずに、なめて徐々に溶かすようにします。

●誤って薬の包装を飲み込んでしまうと、食道に刺さったりして思わぬ事故につながります。うっかり飲み込んでしまわないように十分な注意が必要です。



薬局長
後藤 典子

栄養科トピックス

第2回

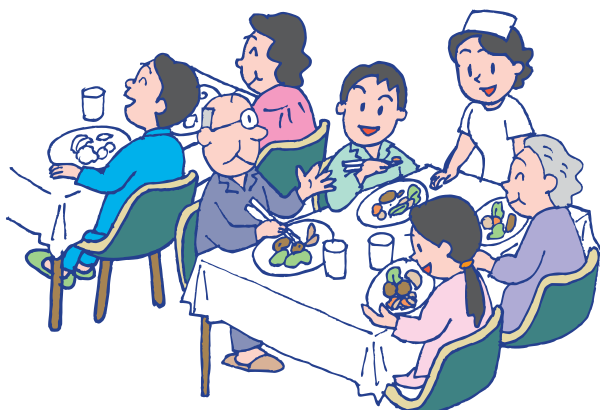
2ヶ月に1回バイキング実施

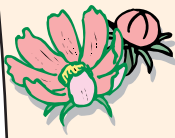
第10回 (H14. 8. 6実施)



栄養科 管理栄養士
矢野 さとみ

入院中に患者様が病室から離れ
少しでも気分転換にと、2ヶ月に
1回バイキングを行っています。
当日には、患者様の前で料理の
実演も行います。
新病院ではより一層喜んで頂け
るよう、取り組んでいきたいと考
えています。
*バイキング参加は対象患者様のみと
させていただきます。





私たちスタッフと 目標とする理念の実現に向けて、 一緒に取り組みませんか？

● 正看護師

● 診療放射線技師

● 臨床検査技師

● 運動療法士

● 保育士

● 事務

窓口業務（パート含む）

広報（パソコン・デザインに詳しい方）

詳細は 人事 佐野まで



編集後記



ようやく秋風がたつようになつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

第二回目の広報誌を、予定通り発刊することができました。

前回の創刊号では、私たちが想像した以上に反響があり、患者様から大変多くのご意見・ご要望等を頂きました。患者様の貴重なご意見など、今後、可能な限り反映させていただこうと考えております。

職員一同、よりよいサービス、理念実現に向けて努力しておりますので、広報誌ともどもよろしくお願い致します。

広報委員会

広報委員会メンバー

葉 後藤 典子
看護部

栄 小 渡 明 美
養 科 部

医療法人 健寿会 黒木病院

発行日 2002年9月30日
発行所住所 黒木病院
編集責任者 寺尾 信一郎

外科・消化器科・内科・泌尿器科・肛門科・放射線科

医療法人 健寿会

救急指定



黒木病院

〒882-0043 宮崎県延岡市祇園町2丁目3番地10
TEL (0982) 21-6381 FAX (0982) 33-8380

診療時間／8:30～12:30 14:00～17:30

但し土曜日は8:30～12:30

但し、急患の場合はこの限りではありません。

